

第2次名張市スポーツ推進計画 (案)

【2026（令和8）年度～2035（令和17）年度】



目次

第1章 計画策定に向けて

- 1 計画策定の趣旨・背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 3 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4

第2章 名張市のスポーツの現状と課題

- 1 スポーツを取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 2 名張市スポーツ推進計画の取組検証・・・・・・・・・・ P 6
- 3 スポーツに関する市民（団体）アンケート調査の分析・・・・・・・・ P 11

第3章 計画の基本的な考え方

- 1 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14
- 2 目指す姿と施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14

第4章 計画推進のための具体的な施策

- 1 だれもが生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくり・・・・・・・・ P 15
- 2 未来を創る子どもの運動・スポーツの充実・・・・・・・・ P 17
- 3 夢をかなえる競技スポーツの推進・・・・・・・・ P 17
- 4 スポーツを楽しむ施設整備と活用・・・・・・・・ P 18

第5章 計画の推進と評価

- 1 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 19
- 2 計画の評価と見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 19

【資料編】

- 1 SDGsに関する資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20
- 2 スポーツに関するアンケート調査実施概要・・・・・・・・ P 21
- 3 スポーツ関連データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 22
 - (1) 児童生徒に関するデータ・・・・・・・・ P 22
 - (2) 生涯スポーツに関するデータ・・・・・・・・ P 22
 - (3) 競技力向上に関するデータ・・・・・・・・ P 23
- 4 体育施設に関する利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 23
- 5 学校体育施設開放に関する利用状況・・・・・・・・ P 25

第1章 計画策定に向けて

1 計画策定の趣旨・背景

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進など、生涯にわたり健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものです。また、スポーツを通じて生まれる人々の交流は、地域の一体感や活力を醸成するものです。

国においては、2022（令和4）年3月に策定された「第3期スポーツ基本計画」では、「する」「みる」「ささえる」といった観点に加え、スポーツの価値を高めるための「新たな3つの視点」として、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」といった新たなスポーツへの関わり方や、その視点を支える具体的な施策として、総合的かつ計画的に取り組む「12の施策」を掲げ、取組を進めています。

三重県では、2023（令和5）年3月に策定された「第3次三重県スポーツ推進計画」において、スポーツは「楽しさ」や「喜び」につながる身体活動とし、国の第3期スポーツ基本計画における「新たな3つの視点」を踏まえ、社会に寄与する「スポーツの持つ力」を活用することで、『スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ』を目指す姿とし、スポーツを通じて「人と人」「人と地域」「地域と地域」の絆を深める取組を進めています。

本市では、2016（平成28）年度からの10年間を計画期間とする名張市スポーツ推進計画（以下「前計画」といいます。）を策定し、「スポーツに親しむ環境づくり」「競技スポーツの推進」「障害者スポーツの推進」「学校体育・スポーツの充実」の4つの基本方針を掲げ各種施策を計画的に取り組むとともに、2023（令和5）年3月に策定した新たな総合計画「なばり新時代戦略」において、基本施策「ととのえる」の取組の一つ「生涯スポーツができる環境をととのえます」として取組を進めています。

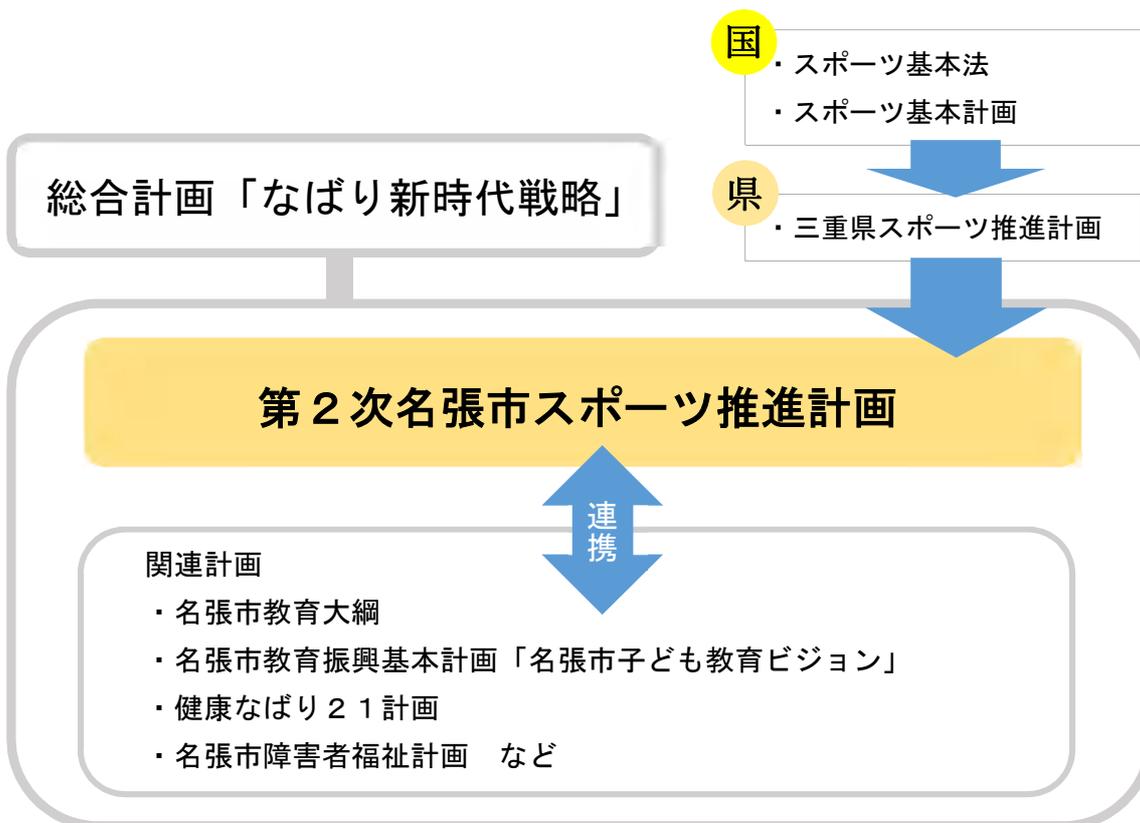
この間、社会情勢やライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症対策、DX化の進展など、スポーツを取り巻く環境や状況の変化に応じた柔軟な取組が求められてきました。

今回の策定に当たり、前計画での成果や課題の検証とともに、スポーツに関する市民（団体）アンケートの分析や、国や県の動向を踏まえ、市民のだれもが、生涯にわたり主体的にライフスタイルに応じたスポーツ活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、「第2次名張市スポーツ推進計画」を策定します。

2 計画の位置付け

「第2次名張市スポーツ推進計画」は、本市の上位計画である総合計画「なばり新時代戦略」の内容と整合させながら、国の「第3期スポーツ基本計画」、三重県の「第3次三重県スポーツ推進計画」を踏まえ、本市におけるスポーツ施策を計画的に推進するための具体的な取組や方向性を示したものです。また、本市の関連計画とも連携していきます。

○第2次名張市スポーツ推進計画の位置付け



◎本計画における「スポーツ」の定義

本計画における「スポーツ」とは、ルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけでなく、体操やウォーキングなどの健康づくりを目的とした運動やレクリエーションなどを含む、「楽しさ」や「幸福感」につながる身体活動全般と捉えます。

3 計画の期間

本計画の計画期間は、2026（令和8）年度から2035（令和17）年度までの10年間とします。ただし、社会情勢の変化などを踏まえ、前期5年の最終年度となる2030（令和12）年度の時点で中間見直しを行います。

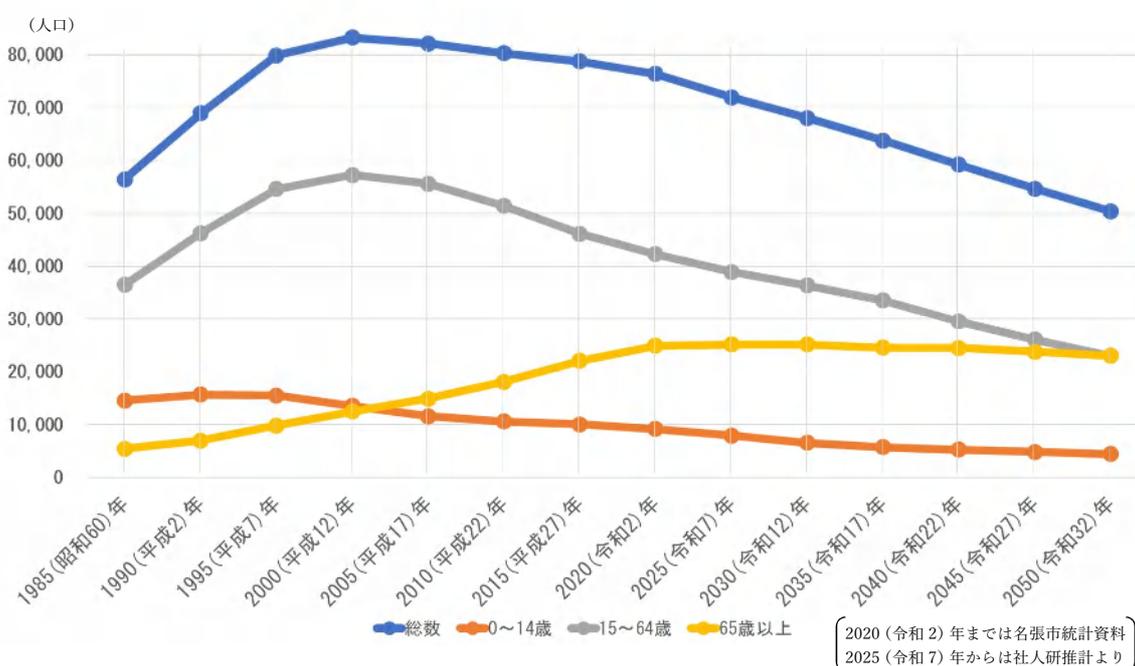
R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
第2次名張市スポーツ推進計画									
前期期間					後期期間				

第2章 名張市のスポーツの現状と課題

1 スポーツを取り巻く状況

(1) 人口減少・少子高齢化の進展

本市の人口は、2000（平成12）年の83,291人をピークに減少傾向をたどっています。今後も減少を続け、2050（令和32）年には、約50,000人（2000（平成12）年から約40%減少）になると見込まれています。なお、これまでのように若者の転出による生産年齢人口の減少が続いた場合、更なる高齢化とともに、人口減少が想定されます。



(2) SDGsへの貢献

持続可能な開発のための2030アジェンダに向けた宣言では、「スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発及び平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。」とスポーツが社会の進歩に果たす役割が示されています。

(3) DXの進展

DX（※）の進展に伴い、人々の働き方や生活様式は大きく変わろうとしています。スポーツの施策を推進する上においても、スポーツの醍醐味である「アナログ」の部分とのバランスを取り入れながら、スポーツをより「豊かに、安心に、便利に」するDXの活用が必要です。

※DXとは、Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）の略。通信情報技術の浸透が人々の生活のあらゆる面でより良い方向に変化させること。

(4) 人材育成、ライフスタイルの変化

スポーツ関連団体や中学校運動部活動など様々な場面で、指導者不足は深刻な課題となっています。特に、子どもたちの育成に関わる指導者の不足は、スポーツの普及や選手の成長に大きな影響を及ぼす可能性があります。こうした中、少子化や学校の働き方改革の取組の一つとして、中学校の部活動改革が求められています。

2 スポーツ推進計画の取組検証

(1) スポーツに親しむ環境づくり

◆スポーツ活動の機会提供

〔現状〕

スポーツ関連団体と連携し、10月のスポーツの日に「なばりスポーツフェスティバル」を開催し、ニュースポーツの普及啓発や体験コーナーを実施しています。また、ウォーキングイベントや各種スポーツ教室の開催など、幅広い年齢の方にスポーツをする機会を提供しています。イベント開催に合わせ「名張ケンコー！マイレージ」を活用し、参加促進を図っています。また、関係協会等においても、教室等を開催しスポーツに親しむ機会、普及を図っています。

学校体育施設の開放については、市内の全ての小中学校で運営協議会を設置し、地域におけるスポーツ活動の拠点施設として多くの団体がスポーツ活動を展開しています。

〔課題〕

今後も市民ニーズを把握しながら、子どもから大人までだれもがスポーツを楽しめる環境づくりを整えていく必要があります。また、イベント等の周知に当たっては、SNS等をはじめとした様々なツールを活用し、積極的な情報発信を行う必要があります。



◆総合型地域スポーツクラブの創設及び充実

〔現状〕

現在、6つの総合型地域スポーツクラブが活動を行っています。また、総合型地域スポーツクラブ間の情報共有や課題解決の方策を図るため、2023（令和5）年度に連絡協議会を立ち上げました。2024（令和6）年11月には、総合型地域スポーツクラブ合同による体験イベントを実施しPRに努めています。



〔課題〕

総合型地域スポーツクラブについては、まだまだ市民への認知度は低く、引き続き、周知・啓発を図るとともに、今後の部活動の地域展開の受け皿となり得る団体の一つでもあることから、持続可能なクラブ運営が行えるよう支援する必要があります。

◆シニアスポーツの充実

〔現状〕

各団体や協会等の活動及び各種大会等を通じ、高齢者の楽しむ機会、スポーツをする機会を図っています。また、地域と関係機関が連携し、身体を動かすことの効果やフレイル予防などの健康づくりの取組を推進しています。

〔課題〕

引き続き、各団体や協会等の活動を支援するとともに、地域と関係機関が連携を図り、スポーツを通じた健康づくりの取組に努める必要があります。



◆指導者の養成・確保

〔現状〕

スポーツ関連団体と連携し、指導者向けの研修を行うなど、指導者の育成・資質向上に努めています。また、スポーツ推進委員の活動においては、名張市スポーツ推進委員協議会を設置し、情報交換や研修会を通して委員の資質向上に努めています。

〔課題〕

引き続き、指導者の養成・確保及び適切な指導を図るため、スポーツ関連団体と連携し、指導者研修会等を継続して開催する必要があります。

今後は、部活動の地域展開に向けた中で、三重県が運用している「みえ地域クラブ活動人材バンク」の活用をはじめ、必要な指導者が派遣できるような仕組みを構築する必要があります。

◆体育施設の整備充実

〔現状〕

新田ゲートボール場の屋根設置工事や、メイハンフィールド（市民陸上競技場）の改修整備（トラック部：全天候型（ポリウレタン舗装）、インフィールド部：人工芝）や日本陸上競技連盟第4種公認競技場の取得、憩いの里 ライフテクノフィールド（市民ホッケー場）の整備及びT O Aの杜テニスコート（市民テニスコート）の改修等を行いました。一方、市民プールにおいては、新型コロナウイルス感染症対策や設備の不具合等により、2020（令和2）年度から利用を休止しています。



体育施設の維持管理費や施設改修に必要な財源として、命名権や広告などの財源確保に努めました。現在、市民野球場、市総合体育館、市民陸上競技場、市民ホッケー場及び市民テニスコートに加えて、2025（令和7）年度より市武道交流館いきいきにおいて、ネーミングライツ（命名権）を導入しました。また、ベルウイングアリーナ（市総合体育館）においては、広告（看板）エリアを設置して、企業・団体等が広告スペースとして活用しています。（2024（令和6）年度実績：39件）

また、施設の有効活用を図るため、指定管理者の自主事業として大会や合宿等を誘致するスポーツ合宿プランを実施しています。

〔課題〕

老朽化が進む体育施設等については、利用者が安全に安心して利用できるよう、指定管理者と連携し施設の維持管理に努めるとともに、長寿命化を意識した整備計画の策定を図り、必要な改修、修繕を計画的に実施していく必要があります。

市民プールをはじめとした体育施設等の今後の在り方については、非常に厳しい本市の財政状況も踏まえ、公共施設全体の整備の方向性も視野に入れて検討していく必要があります。また、スポーツの普及や競技力の向上を図るため、民間施設を活用するなど、公民が連携したスポーツの環境づくりを検討していく必要があります。

(2) 競技スポーツの推進

◆競技力の向上

〔現状〕

ホッケー競技においては、「ホッケーのまち なばり」の基本計画を策定し、その具体化した取組として、名張青峰高校ホッケー部や小中学生を対象としたスポーツ少年団が開設され、憩いの里 ライフテクノフィールド（市民ホッケー場）を拠点として活動するとともに、名張市ホッケー協会の協力を得ながらジュニア世代の育成に取り組んでいます。



陸上競技においては、市陸上競技協会と連携し、美し国三重市町対抗駅伝の選手選考や強化練習等を行い、本大会に名張チームとして出場しています。

各種目競技において、全国大会や世界大会等に、市内在住又は出身の選手等が出場し、活躍しています。また、名張市スポーツ激励金支給に関する事務取扱基準を定め、全国大会以上に出場する選手に対して激励金を支給しています。

〔課題〕

今後も関係協会等と連携し、選手の育成等を図るとともに、優秀な成績を収めた選手（団体）に対して表彰制度を継続しながら、競技力の向上に取り組む必要があります。また、三重県が2035（令和17）年に開催される第89回国民スポーツ大会の開催申請書提出順序了解県として承認（開催内々定）されたことを受け、国や県の動向を注視し情報収集に努めていく必要があります。

◆環境整備

〔現状〕

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、三重とこわか国体開催に向けて整備した憩いの里 ライフテクノフィールド（市民ホッケー場）が、2023（令和5）年11月に日本ホッケー協会より「公式ホッケータウン」として認定を受けました。同施設においては、日本ホッケー協会（JHA）フィールドの



公認（JHAナショナル規格クラス I 公認フィールド適合）を取得しました。（更新期限：2029（令和11）年6月19日）

また、メイハンフィールド（市民陸上競技場）は、現在、日本陸上競技連盟第4種ライト公認競技場として認定を受けています。（更新期限：2027（令和9）年3月31日）

〔課題〕

老朽化が進む施設等の計画的な改修等や、日本陸上競技連盟第4種ライト公認競技場としての認定更新をはじめ、県大会や東海大会が開催できる競技施設の整備に努める必要があります。

3) 障害者スポーツの推進

◆障害者スポーツの普及拡大

〔現状〕

事業者等からボッチャの備品を寄贈いただき、それを活用した体験会の実施や、名張市身体障害者互助会によるサウンドテーブルテニスの活動会など、障害のある人もない人も、全ての市民が気軽にスポーツに親しめる機会を創るとともに、ひなち湖マラソン大会では、障害のある人が伴走者と共に参加しています。また、2024（令和6）年11月には5年ぶりに名張市障害者スポーツ大会が開催されました。



〔課題〕

障害者スポーツの普及拡大を図るためには、障害者スポーツ指導員などのサポート体制の充実とともに、障害者スポーツの活動をする団体が中心となり組織体制を図る必要があります。

◆環境整備

〔現状〕

ベルウイングアリーナ（市総合体育館）の多目的トイレの設置などユニバーサルデザイン化に取り組みました。

〔課題〕

今後は、各施設の更なるユニバーサルデザイン化に取り組む必要があります。

(4) 学校体育・スポーツの充実

◆体力向上の推進

〔現状〕

2024（令和6）年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、体力合計点が、本市の小学生は、全国と同じ傾向で、男子は昨年度と比べほぼ横ばい、女子は低下しました。また、中学生では全国の傾向とは違い、男女とも大きく上昇しました。



各実技種目で比較すると、小中学校の男子、女子ともに「全国の平均値より高い」実技種目は、握力・長座体前屈・反復横とびでした。全国平均との比較で、課題となる実技種

目は、シャトルランで、中学校男子は全国平均より高いが、小学校の男女、中学校女子は下回りました。

〔課題〕

教育委員会において、学力・体力調査活用検討委員会で結果の分析や課題等の共有を行い、そこで出された方向性を踏まえ、指導主事等からの助言を基に、今後の各校の取組や授業づくりについて、よりよい方法を検討する必要があります。あわせて、教育センターにおいて、本市の課題に対応した教職員向け研修を図るとともに、各学校では、本調査結果に加え、全ての学年の児童生徒の体力や運動習慣等の状況を把握し、課題の克服や体力向上に向けて、授業等の工夫・改善に取り組む必要があります。

◆学校関係体育団体との連携

〔現状〕

中学校運動部活動において、合同部活動の導入や部活動指導員等の適切な配置により、生徒の活動機会を確保するとともに、学校部活動の地域連携を推進し、専門的な技術の習得、技術力向上を図るため、令和6年度は8人の部活動指導員を配置しました。

〔課題〕

今後も学校関係体育団体やスポーツ関連団体と連携し、子どもが日常的にスポーツに親しめる場を提供していく必要があります。また、国や県の動向を注視し、部活動の地域展開に向けた体制を検討する必要があります。

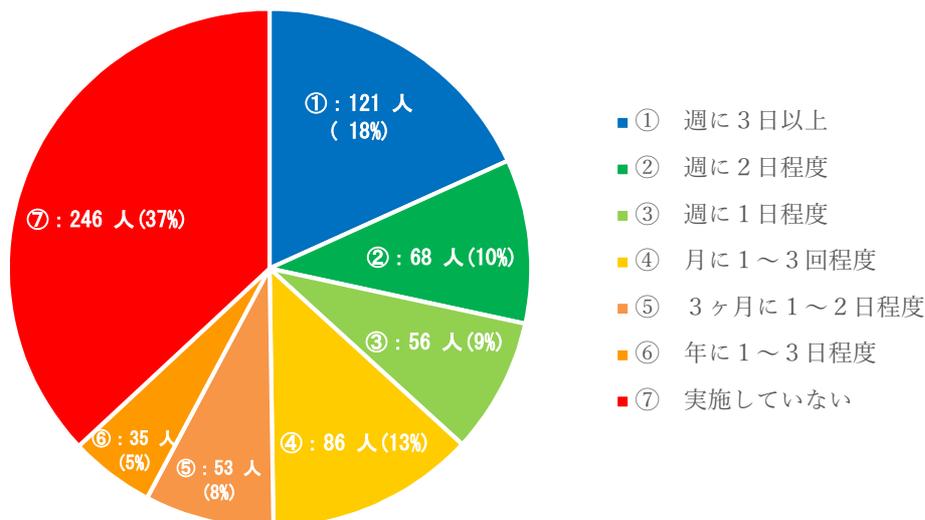


3 スポーツに関する市民（団体）アンケート調査の分析

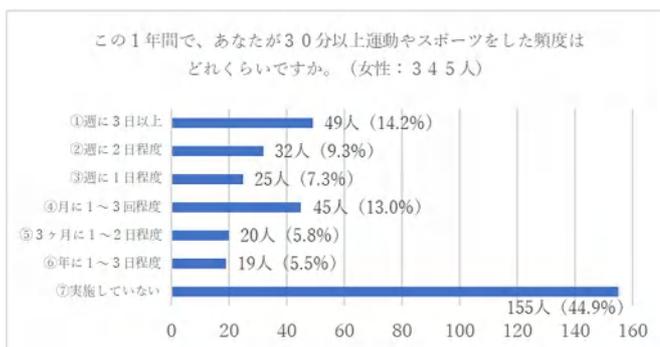
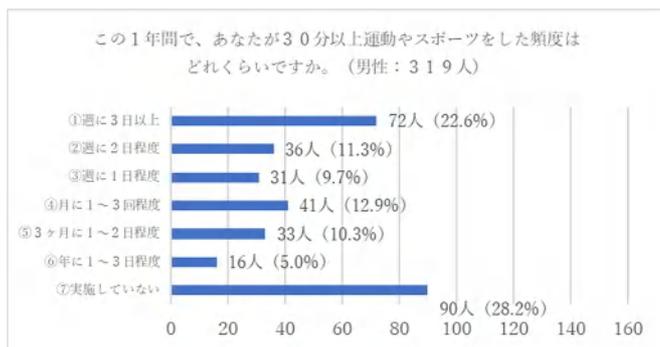
スポーツに関するアンケート調査の実施概要については、資料編（21ページ）に掲載しています。

＜市民アンケート＞〔回答者数：665人、回収率：33.3%〕

★1年間で、あなたが30分以上運動やスポーツをした頻度

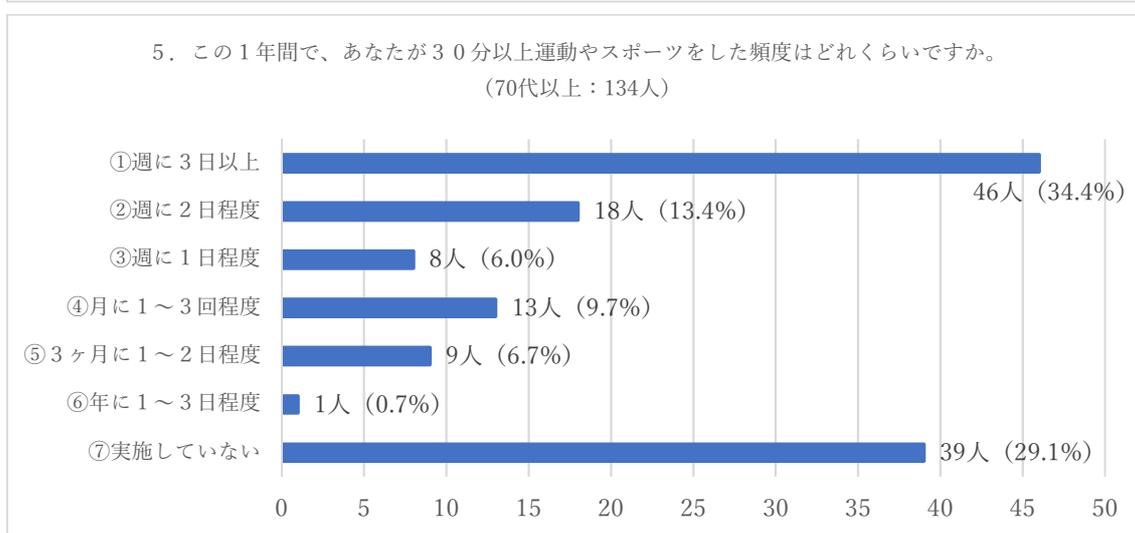
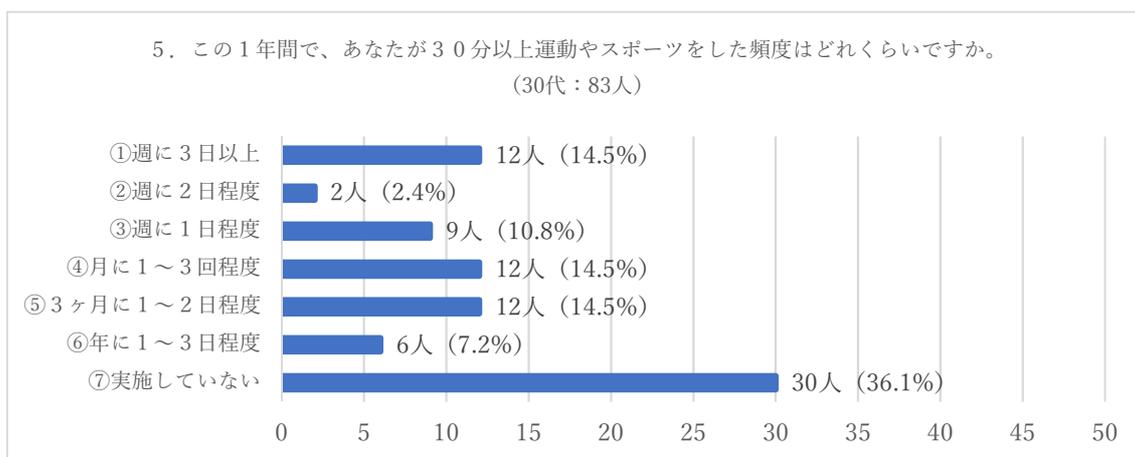


★男女別のこの1年間で運動やスポーツをした頻度

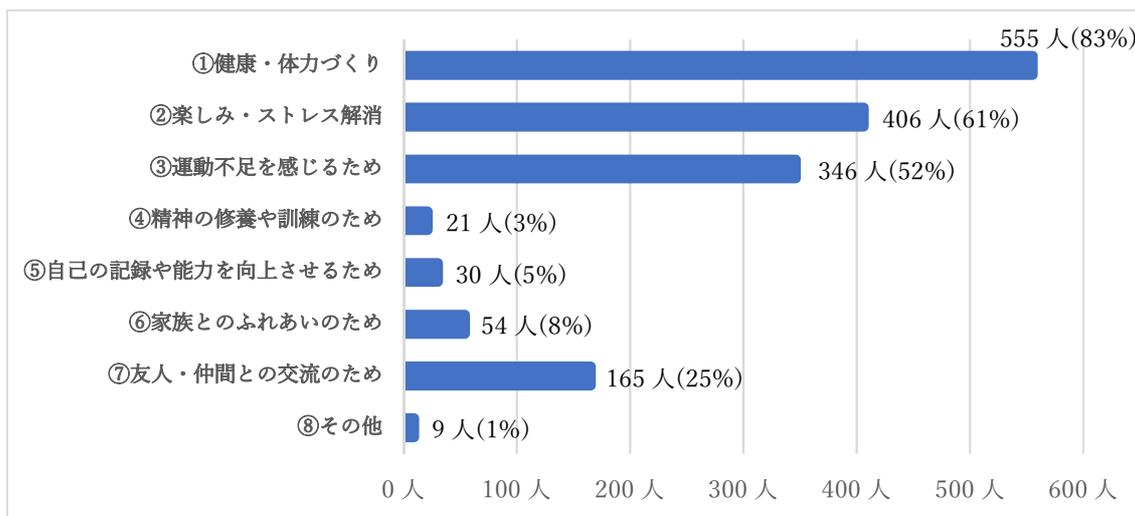


約20%の人は、週に3日以上運動やスポーツを実施していますが、約40%以上の人が運動やスポーツを年に1日～3日程度及び運動やスポーツを行っていないという結果でした。また、男女で比較すると、男性の方が運動やスポーツをしている人の割合が多く、女性の運動やスポーツをする頻度を増やす対策が必要であると考えます。

★年代別のこの1年間で運動やスポーツをした頻度（30代と70代との比較）



★今後、運動やスポーツを行う場合に重要と考える点（目的）について（複数回答）

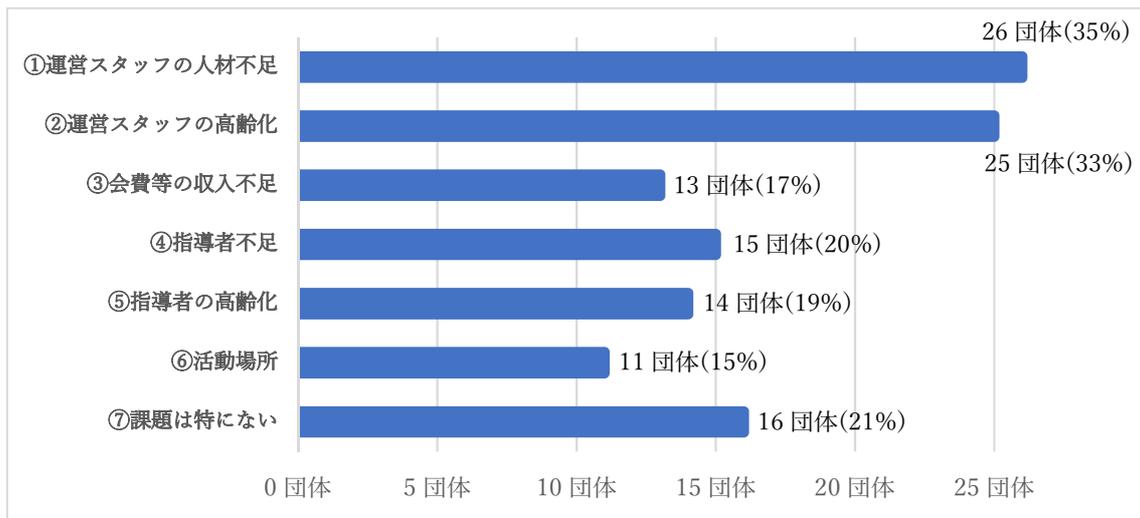


年代別では70代以上が運動やスポーツをする頻度が高く、30代～50代の働く世代・子育て世代の運動やスポーツをする頻度が低い傾向にあります。これは、運動やスポーツをする時間がなく、又は運動やスポーツをする優先順位が低いということが考えられます。

市民アンケートより、現在行っている主な運動やスポーツとして半数以上が気軽にできるウォーキングを行っています。また、今後、運動やスポーツを行う場合に重要と考える点では、80%以上の人が、健康・体力づくりと答えています。

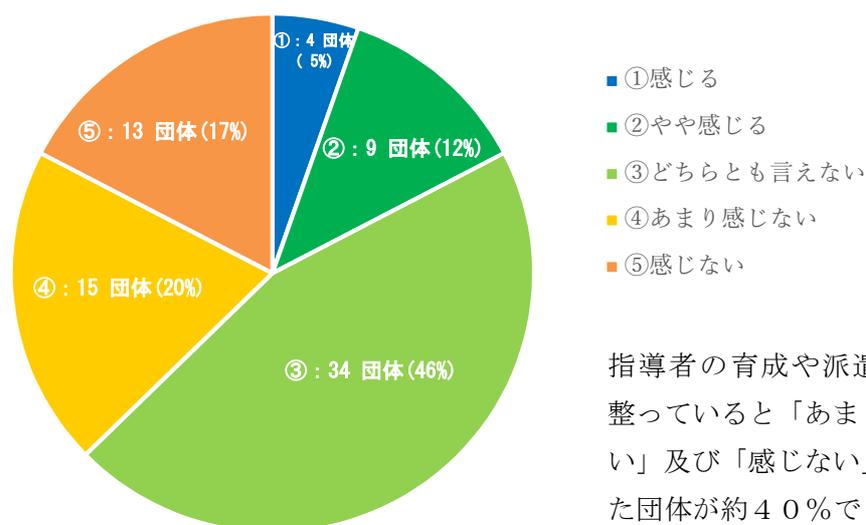
<団体アンケート>〔回答団体数：75団体、回収率：44.4%〕

★団体運営の課題について（複数回答）



運営スタッフについては、人材不足・高齢化を課題とする団体が約30%以上でした。

★指導者の育成や派遣体制は整っていると感じている割合



指導者の育成や派遣体制が整っていると「あまり感じない」及び「感じない」と答えた団体が約40%でした。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

市民の皆さんがスポーツの価値を広く享受し、ウェルビーイング〔Well-Being〕(※)の向上につなげ、一人ひとりがふるさと名張に愛着と誇りを持ち、豊かで充実した生活を送ることができる社会づくりが必要です。

第2次名張市スポーツ推進計画では、だれもがスポーツにふれ親しむ機会や環境を整え、未来を創る子どもを育み、いつまでもスポーツとともに人生を歩み、スポーツを通じて人と人、人と地域がつながる『スポーツを楽しめるまち なばり』の実現を目指します。

※ウェルビーイング〔Well-Being〕とは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念です。また、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的によい状態であることを含む包括的な概念のことです。

2 目指す姿と施策体系

目指す姿の実現に向け、4つの「基本方針」を定めて取組を進めていきます。



○本計画の数値目標（KPI）

本計画を推進していく上での数値目標を定めます。

項目	現状値	目標値
	2024（令和6）年度	2030（令和12）年度
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合	38.2%	48%
運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合 ※対象は児童（小学5年生）、生徒（中学2年生）	87.3%	90%
全国大会以上に出場する選手（団体）※延べ数	120件	130件
市民1人当たりの年間体育施設利用回数	4.8回	6回

第4章 計画推進のための具体的な施策

1 だれもが生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくり

市民の皆さんが、スポーツによる「楽しさ」を享受でき、生涯にわたり子どもから高齢者まで多様な人々がスポーツに親しみ、交流を図り、ウェルビーイングの向上につながるよう、スポーツにふれ親しむ環境を整えます。



※SDGsへの貢献や取組に関する説明は資料編に掲載しています。

○スポーツ活動の機会提供

スポーツ関連団体と連携し、市民アンケートの分析結果からスポーツをする頻度が低い30代～50代の働く世代・子育て世代などスポーツを行う機会が少ない人や、スポーツを行うことに対して抵抗感や苦手意識を持っている人でも、気軽に参加してスポーツを楽しんでもらうことができるイベントや教室、大会などを実施します。

また、学校施設などを有効活用することによって日常生活の中で気軽にスポーツに親しむことができる環境を整えます。

- ・スポーツに親しむことができるイベント等の実施
- ・身近な施設でスポーツができる環境づくり



ホッケーの体験教室



なばりスポーツフェスティバル
バターポケットの体験コーナー



名張青蓮寺湖駅伝競走大会

○総合型地域スポーツクラブの支援

身近な場所で気軽にスポーツに親しむことができる総合型地域スポーツクラブの活動を支援するとともに、その魅力や楽しさを発信することで、より多くの人々が地域でスポーツを楽しむことができる環境を整えます。

- ・総合型地域スポーツクラブの活動・拡充等の支援



総合型地域スポーツクラブの体験イベント

○シニアスポーツの充実

高齢者がいつまでも元気にスポーツに親しむことができる環境を整えるとともに、身体を動かすことに対する意欲を高め、スポーツ活動を継続して行うことができるよう支援します。

- ・シニア世代が気軽に参加できるニュースポーツなどの機会の提供
- ・関係機関等と連携し、スポーツを通じた活動等の支援
- ・スポーツを通じた世代間交流の促進

○障害者スポーツの普及・啓発

障害のある人が、その種類や程度に関わらず、気軽に参加できるスポーツ機会の創出とともに、障害者スポーツの活動をする団体が中心となる推進体制の構築を検討します。

- ・障害のある人もない人も、全ての市民がスポーツを楽しめる機会の提供と環境づくり
- ・関係機関等と連携した障害者スポーツの推進

○多様なスポーツ機会の創出

自分に合ったスポーツを見つけ、生涯にわたって家族や友達と日常的にスポーツ活動に親しむことができるよう、SNS等を活用した情報発信とともに、機会の創出を図ります。

- ・アーバンスポーツ（スケートボード、BMX等）やeスポーツ等について、団体等と連携した教室やイベント等の開催



eスポーツの体験イベント

○地域スポーツを支える人材の育成、支援等

スポーツ関連団体と連携し、指導者の発掘と育成を図ります。また、スポーツ推進委員の活動を支援します。

- ・地域スポーツの担い手の発掘と育成
- ・スポーツ推進委員の活動支援
- ・県と連携した人材バンク等の活用



スポーツ推進委員協議会によるウォーキングイベント（出発前の準備運動）

2 未来を創る子どもの運動・スポーツの充実

子どもたちの体力向上につながる取組を行うとともに、運動・スポーツを楽しみながら継続して行うことができる環境を整えます。



○子どものスポーツ活動の充実

学校や地域スポーツクラブ等と連携し、子どもが運動・スポーツに親しみ、楽しく行うことができる環境を整えます。

- ・地域スポーツクラブ等と連携した環境づくり
- ・子どもの体力向上
- ・指導者の指導力向上



スポーツ少年団によるスポーツACP※活動

○運動部活動の改革

関係機関やスポーツ関連団体との協力体制を築き、運動部活動の在り方について検討を進めていきます。

- ・地域展開に向けた国や県の動向を注視し、名張市部活動の在り方検討委員会と連携した取組の推進
- ・スポーツ関連団体と連携した協力体制の構築

※スポーツACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）とは、日本スポーツ協会が開発し、子どもたちが楽しみながら体を動かし、心身の成長を促す運動プログラム

3 夢をかなえる競技スポーツの推進

アスリートを目指す皆さんの活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、本市ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、市民の皆さんに夢や希望を届け、名張への愛着と誇りを高めます。



○競技力の向上

学校やスポーツ関連団体と連携し、選手の育成等を行うとともに、優秀な成績を収めた選手（団体）に対する表彰制度を継続しながら、競技力の向上に努めます。

- ・学校やスポーツ関連団体と連携し、アスリートの発掘と育成



スポーツクライミング競技

- ・優秀選手（団体）表彰制度
- ・「ホッケーのまち なばり」の推進



ホッケー競技

○指導者の養成、資質向上

学校やスポーツ関連団体と連携し、専門性を高め、適切な指導が図れるよう、指導者の養成に努めます。

- ・指導者講習会等の開催

4 スポーツを楽しむ施設整備と活用

老朽化が進む体育施設の機能向上と安全性の確保を図るとともに、利用者のニーズに対応する体育施設の整備、改修等に努めます。また、スポーツを通じた取組により、地域活性化を図ります。



※SDGsへの貢献や取組に関する説明は資料編に掲載しています。

○スポーツ環境の整備等

利用者が安全・安心に体育施設を利用できるよう、施設の長寿命化を図り、年次的に必要な改修等を行います。また、今後の国民スポーツ大会に向けて、国や県の動向を見据え、対応を検討します。

- ・緊急性や優先度を踏まえ老朽化が進む施設の改修・整備
- ・ネーミングライツや有料広告をはじめとした財源確保の取組
- ・公民連携によるスポーツの環境づくり
- ・公共施設全体の整備の方向性や広域化による施設の相互利用を見据え、持続可能な体育施設の在り方の検討



令和7年度より新たにネーミングライツに取り組んだ施設

○身近なスポーツへの利用促進

利用者のニーズを的確に捉え、指定管理者と連携し、体育施設の効率的な管理運営とともに、DXの活用により施設の利便性を図ります。

- ・指定管理者制度による効率的な施設管理と運営
- ・DXの活用による施設の利便性や効率化の推進
- ・スポーツ関連団体及び地域等と連携したスポーツツーリズムの取組



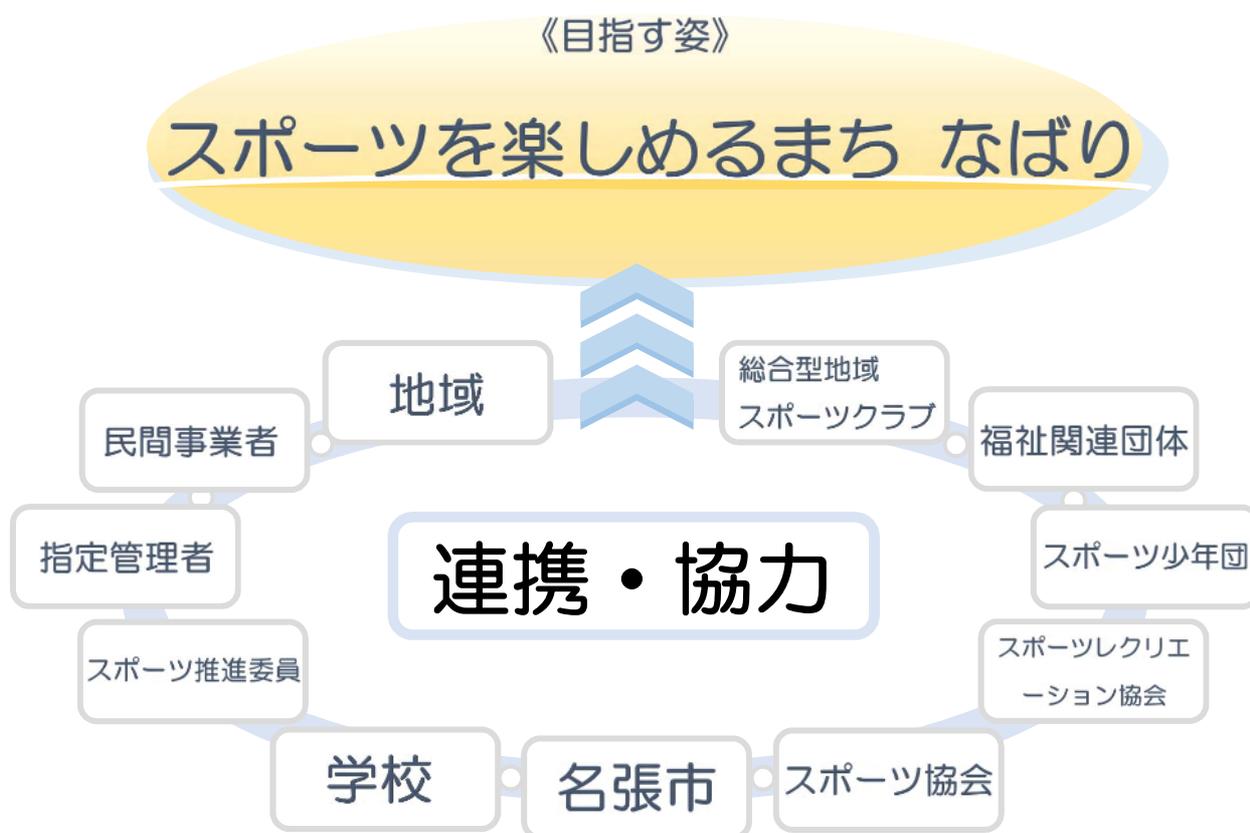
指定管理者による自主事業（テニス教室）

第5章 計画の推進と評価

1 計画の推進体制

「第2次名張市スポーツ推進計画」を推進し、目指す姿「スポーツを楽しめるまち なばり」を実現していくために、市だけでなくスポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、学校、地域、民間事業者など数多くの主体が相互に連携、協力しながら取組を進めていくことが求められます。

○推進体制イメージ図



2 計画の評価と見直し

「第2次名張市スポーツ推進計画」の4つの基本方針に対し、その進捗を測るための数値目標（KPI）については、毎年度、名張市スポーツ推進審議会において各施策の進捗状況の確認、評価を行います。

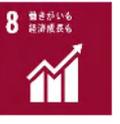
また、社会情勢の変化なども踏まえ2030（令和12）年度に計画の中間見直しを行います。

【資料編】

1 SDGs に関する資料

SDGs は、Sustainable Development Goals の略。持続可能な世界を実現するため、17 のゴール、169 のターゲットから構成されている国際目標である。スポーツが本来持っているチカラを活用し、持続可能な社会づくりに貢献しています。

今回、第2次名張市スポーツ推進計画で用いたSDGs の目標とスポーツの貢献内容は、下表のとおりです。

	目標	スポーツの貢献
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	運動・スポーツに親しみ、楽しむことは、精神や身体に良い影響を与え、健康寿命の延伸や福祉の向上につながります。
	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	小中学校・高等学校・高等教育機関において、公平で質の高い体育・スポーツ教育を受けることは、一生涯の健全なライフスタイルの確立につながります。
	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	女性のスポーツ参画に取り組むことは、ジェンダー平等の実現に寄与します。
	すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する	スポーツは様々な関連産業において多様な人々の雇用を生み出し、地域経済の活性化につながります。
	国内および国家間の不平等を是正する	スポーツは世界共通の文化であり、国内外の地域間格差など不平等の解消に役立ちます。
	都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする	誰もが気軽にスポーツを楽しむことで、持続可能なまちづくりにつながります。
	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。	スポーツは、子ども、保護者、指導者、地域などが協力し、SDGs 達成に向けた取り組みを推進する場となります。

2 スポーツに関するアンケート調査実施概要

1. 調査の目的

教育委員会では、第2次スポーツ推進計画の策定に向けて、市民及びスポーツ関連団体の運動やスポーツに対する意識や活動の実態に関する基礎的データの把握を目的として、市民を対象にアンケート調査を実施するものである。

2. 調査概要

(1) スポーツに関する市民アンケート

- ・調査対象

18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）

- ・調査方法

上記対象者に郵送し、インターネットでの回答

※書面による回答を希望する方については、郵送対応を実施

- ・調査期間

令和6年11月21日（木）～12月20日（金）

- ・回答者数

665人

- ・回収率

33.3%

(2) スポーツに関する団体アンケート

- ・調査対象

市内のスポーツ関連団体 169団体

（名張市スポーツ協会加盟団体、名張市スポーツレクリエーション協会、名張市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、学校体育施設等開放事業の登録団体）

- ・調査方法

上記の団体に電子メールを送信し、インターネットでの回答

※一部の団体には郵送し、インターネットでの回答

- ・調査期間

令和7年1月7日（火）～同月22日（水）

- ・回答団体数

75団体

- ・回収率

44.4%

3 スポーツ関連データ

(1) 児童生徒に関するデータ

①運動（体を動かす遊びを含みます。）やスポーツをすることが好きな児童の割合（小学5年生）（単位：％）

年度		R3	R4	R5	R6
名張市	男子	91.9	90.6	93.8	90.8
	女子	85.1	83.6	85.1	86.3
	合計	88.7	87.1	89.5	88.6
三重県	男子	91.2	92.5	93.5	93.7
	女子	83.7	86.4	84.9	86.1
	合計	87.5	89.5	89.3	90.0

②運動（体を動かす遊びを含みます。）やスポーツをすることが好きな生徒の割合（中学2年生）（単位：％）

年度		R3	R4	R5	R6
名張市	男子	88.9	90.5	90.5	92.7
	女子	79.2	75.8	78.6	77.4
	合計	84.1	83.2	84.6	85.9
三重県	男子	88.8	90.4	90.6	90.7
	女子	77.6	79.0	77.2	77.8
	合計	83.3	84.9	84.1	84.4

③運動部活動への加入率（中学2年生）（単位：％）

年度	R3	R4	R5	R6
運動部活動の加入率	69.2	61.8	61.2	61.4

④運動部活動への派遣外部指導員（単位：人）

年度	R3	R4	R5	R6
派遣外部指導員数	7	4	4	8

(2) 生涯スポーツに関するデータ

①スポーツに親しんでいる市民の割合（単位：％）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合	40.7	41.5	40.2	40.5	38.2

②総合型地域スポーツクラブ（単位：クラブ）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
クラブ数	5	5	5	5	6

③スポーツ少年団

(単位：団、人)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
団数	13	13	13	13	11
団員数	329	318	318	327	269

(3) 競技力向上に関するデータ

①全国大会以上に出場した選手(団体)

(単位：件)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
全国大会以上に出場した選手(団体)数	24	48	86	119	120
内 全国中学校体育大会	0	4	2	1	3
内 全国高校総体	9	17	21	30	36
内 国民スポーツ(体育)大会	0	0	11	18	11
内 世界大会	0	0	0	2	2

4 体育施設に関する利用状況

① 名張中央公園

○ベルウイングアリーナ(市総合体育館)

(単位：人)

年度	R2	R3	R4	R5	R6	
アリーナ	スポーツ	25,523	24,895	45,285	35,536	32,774
	スポーツ以外	885	930	1,530	1,970	6,150
	一般公開	496	244	212	298	133
卓球室	6,327	6,586	9,228	8,945	9,118	
トレーニング室	158	142	110	44	80	
合計	33,389	32,797	56,365	46,793	48,255	

○その他体育施設

(単位：人)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
TOAテニスの杜 (市民テニスコート)	20,482	15,579	13,634	29,146	29,817
メイハンスタジアム (市民野球場)	1,717	3,573	6,312	6,852	6,944
市民プール	休止	休止	休止	休止	休止
メイハンフィールド (市民陸上競技場)	44,011	45,105	46,344	47,034	50,607
市ターゲット・バードゴルフ場	3,098	2,881	3,719	3,326	3,233
市民ゲートボール場	231	350	200	310	202

② ベルウイング武道交流館（市武道交流館いきいき）

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
武道館	27,601	32,550	37,298	38,416	35,172
健康トレーニング室	4,018	3,832	3,847	4,029	3,796

③ 憩いの里 ライフテクノフィールド（市民ホッケー場）

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
ホッケー場	9,217	9,893	11,366	20,323	18,725

④ つつじが丘運動公園

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
運動場	4,790	6,088	6,977	6,041	5,590
テニスコート	2,540	3,198	3,795	2017 ^(※)	休止

※R5.10より利用停止

⑤ 八幡2号公園

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
運動場	222	6,801	6,055	2,480	4,642

⑥ 薦原公園

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
ソフトボール場	638	885	605	894	694
テニスコート	2,010	2,251	2,358	1,909	1,507

⑦ みはたメイハンランド内 新田ゲートボール場等

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
新田ゲートボール場	830	474	369	883	582
多目的広場	310	947	57	1,253	1,373

⑧ 閉校学校に関する利用状況

（単位：人）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
滝之原体育館	4,833	3,819	4,221	2,603	2,826
〃 運動場	1,501	1,568	1,663	1,333	868
錦生体育館	6,102	4,989	7,350	7,179	6,737
〃 運動場	0	49	0	0	0
国津体育館	1,713	1,614	1,574	2,362	2,143
〃 運動場	178	185	334	311	191
長瀬体育館	0	0	0	0	116

⑨ 市民1人当たりの年間体育施設利用回数

（単位：回）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
市民1人当たりの年間体育施設利用回数	3.7	3.7	4.3	4.8	4.8

※各年度の〔体育施設等〕〔学校体育施設〕の利用人数の合計を3月31日時点の人口で除したものです。

5 学校体育施設開放に関する利用状況

○学校体育施設開放事業

(単位：人)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
市内19校 ^(※) 利用人数	110,250	101,262	116,976	126,846	130,823

※小学校14校、中学校5校